

## 岩手県ドクターヘリによる新生児搬送体制の整備について

## 1 概要

岩手医科大学附属病院が作成している「岩手県新生児ドクターヘリ搬送実施マニュアル」に基づき、緊急の医療的処置を要する新生児等の搬送体制の本格運用に向けて引き続き協力を依頼するもの。

## 2 事業内容

## (1) 搬送対象

緊急の医療的処置を要する未熟児、新生児若しくはそれに準じるNICU入院中の児

## (2) 搬送経路

原則、地域周産期母子医療センターから総合周産期母子医療センターへの施設間搬送

## (3) 搭乗人員

## ア 運航スタッフ

操縦士（機長）1名及び整備士1名の計2名とする。

## イ 医療スタッフ

岩手医大病院高度救命救急センターの医師（フライトドクター）1名及び看護師（フライトナース）1名、並びに小児科医師1名の計3名とする。

## ウ 傷病者

1名とし、家族の搭乗は不可とする。

## 3 経緯

平成29年度に開催された岩手県周産期医療協議会第3回周産期医療体制整備計画検討部会において、岩手医科大学小児科学講座松本敦助教から、本事業の導入についての提言を受け、平成30年度に、既に同事業を実施している青森県の事例を参考としながら、松本助教・フライトドクター・ドクターヘリ通信指令の三者によるワーキンググループを行い、本県の別添新生児ヘリ搬送実施マニュアルの作成に着手した。併せて、県の補助事業により、新生児搬送用の資機材を岩手県ドクターヘリに整備した（新生児搬送に係る出動の際のみ積載）。

令和元年度から、同大学において、保育器を載せたストレッチャーをドクターヘリに積み降ろしする訓練等を実施し、令和2年度の岩手県ドクターヘリ運航調整委員会（R3.2.12 書面協議）において、「岩手県新生児ドクターヘリ搬送実施マニュアル」の策定が承認された。

## 4 今後の対応

これまで地域周産期母子医療センターと岩手医科大学間において、新生児搬送に係る訓練を重ねてきたところであるが、今年度中に訓練を完了する予定であり、本格運用に向けた環境が整う見込となったことから、その運用については岩手県ドクターヘリ運航調整委員会にも諮りながら、令和4年4月から本格運用を開始する予定である。